

審議会等会議録(概要版)

審議会等の名称	第8回山口市総合計画策定協議会
開催日時	令和4年11月17日(木曜日)15:00~17:00
開催場所	防長苑 2階 孔雀
公開・部分公開の区分	公開
出席者	進士正人委員、今村主税委員、藤井智佳子委員、橘康彦委員、佐藤真澄委員、桑原智恵委員、小山文彦委員、坂本京子委員、白石レイ委員、鈴木春菜委員、于佳男委員、永久弘之委員、戸田岸巖委員、重村奈津枝委員、小野哲委員、安光忠彦委員、粉川妙委員、手嶋郁夫委員、郡さやか委員
欠席者	田中貴光委員
事務局	山口市総合政策部企画経営課
次第	1 開会 2 会長挨拶 3 議事 （1）第7回山口市総合計画策定協議会以降の状況 （2）今後の予定 （3）第二次山口市総合計画 後期基本計画 素案について （4）意見交換 4 今後の日程 5 閉会
内容	<p>次第に基づき、以下のとおり進められた。</p> <p><u>1 開会</u> 【事務局】 (資料の確認、欠席委員についてのお知らせを行った。)</p> <p><u>2 会長挨拶</u> 【会長】 本協議会は、昨年度末から始まりまして、夏の暑い頃を経て、ついに風が吹くような時期になってまいりました。白熱した議論をさせていただきながら、この策定協議会を進めてくる事が出来まして、案のとりまとめに向けて、今、事務局も準備をしてきております。本日は、素案を見ていただきながら、活発な御意見等を賜りたいと思っておりますので、どうかよろしく申し上げます。</p> <p>それでは議事に入ります前に、皆様にお願いがございまして。会議録の作成のために発言内容を録音しております。そのため、発言の際は、マイクを使って御発言をいただきたいと思っております。また、本日の協議会は、17時終了予定として進めたいと思っておりますので、委員の皆様方の御協力をお願いいたします。</p>

3 議事

【会長】

それでは、次第に従いまして、3番目の「議事」に入りたいと思います。議題について、それぞれ事務局から説明をいただきながら、進めていきたいと思ひます。よろしくお願ひします。

(1)第7回山口市総合計画策定協議会以降の状況 ～ (2)今後の予定

【事務局】

〔資料1〕「第8回山口市総合計画策定協議会 説明資料」について説明を行う。）

【会長】

ありがとうございました。

ただいま、「資料1」と「資料2」の御説明をいただいたところですが、まず、資料1に關しまして、御質問・御意見等あればいただきたいと思ひますが、いかがでしょうか。

「大学生アンケート」というのは、前から非常に気にはなっていて、どんな結果が出るのだろうかと思ひていました。思っただ通りのところと、「え!？」と思ふところもありました。また、子育てのアンケートも出ておりますので、気になったところがございましたら、委員の皆様方から御質問等をいただければと思ひますが、いかがでしょうか。どこからでも結構ですけれども。

【A委員】

25ページなのですが、「大学別、卒業後の山口居住希望と県内就職率の比較」で、山口学芸大学だけ逆転しているのですが、実は、山口学芸大学の90%以上が専門職の就職なのです。山口芸術短期大学についても、ほとんど保育分野に就職をしています。逆に言うと、県内に就職していない人というのが、公務員を除く一般職の人です。このようなことを考えると、山口県内に公務員や教育専門職以外の職で、なかなか魅力があるところが無いということの表れなのかなと思ひました。

【会長】

理屈が分かりましたね。ありがとうございました。

他に何か。どこからでも結構ですが、いかがでしょうか。

大学生の話ですけれど、やはり、大学生は、車を持ってないというイメージが、大学の教員側にはあるのですけれど、特に、山口大学の場合、山口市の吉田キャンパスは、1年生がメインなので、未成年の学生が多い。そうすると、どうしても、親が車を買ひ与えてしまうと、親が払う任意保険料がすごく高くなるということで、「車を持たせないで済むなら、持たせたくない」というのは、親の心情としてあるようです。そうすると、子どもがどうするかというと、歩いて湯田温泉までは行かず、なかなか行くところが無い。動けなくなると、家でゲームするという流れになっているように見える。その結果が、アン

ケートとして出ているような気がしています。

山口県立大学はいかがでしょう。

【B委員】

自由記述のところでは街灯が少ないとか、あと、近くに飲食店とか娯楽施設がほしいというのはおそらく、県立大学の学生が相当数、入っているだろうと思います。大学周辺で生活に必要な施設というのが十分に揃っていないところもあるかなと思ひまして。民間の経営的な視点も当然ありますけれども、どのように若い人たちに施設を提供できるようにするかというの、ひとつの視点として重要ななと思ひました。

【会長】

ありがとうございます。他にいかがでしょう。

特に、子育てというところに関するキーワードを御覧になられて、御質問、御意見等ございますか。

【C委員】

子育て世代のアンケートの意見を見ていて、面白いなと思ひました。急な発熱であるとか、障がいがあって、困った時の相談窓口がないという意見は出ていないので、その意味ではすごく安心しました。もっと豊かに子育てするために必要なもの考えたときに、コロナの感染者数が減って、様々な子育て支援施設を県外に見に行く機会が増えてきました。都心部の支援施設でよくあるのが、ショッピングモールの中に子育て支援施設があって、その中に一時預かりできる部屋があって、そして、有料の室内パークやファミリーサポートセンターという預かりもお願いできる窓口もある、というような複合パターン。モールの中に、休憩できるようなスペースがある。それだけではなくて、お母さんが一時預かりを利用して、ゆっくりお昼寝できる暗い部屋があり、マッサージルームがある場所もある。ここまでしっかりお母さんたちに「ゆっくり休んで、育児をまた明日から頑張るね」というようなところも必要なのかなと、都心部に出て、見て感じました。山口市がそれと同じことをするかというのは、考えていけないと思ひうのですけれども。

それに加えて、大学生調査結果を見ると、映画館もあつたり、カフェもあつたり、という基本的な施設が山口にはないので、そういったところも必要ななというのは感じました。大学生の余暇の過ごし方で一番多いのが、「動画鑑賞」なんですよね。私たちが18～19歳のときは、今回の調査結果で一番少ない「ボウリング」とか、「カラオケ」とかで時間を過ごしていた気がするのです。私は山口じゃなかったのですけれども、山口に帰ってきて、ボウリングしたりとか。でも、最近の子は動画鑑賞するのだなと驚きました。では、山口市としてどうやって外へ連れ出していくのか、お金をそこで使ってもらって、動いてもらうって、難しいことだなと感じたので、何か新しいアイデアとかがこういう会議で出れば良いなと改めて感じました。

【会長】

ありがとうございます。他に何か御意見等ございますか。

【D委員】

今のネットの件なのですけれども、2年くらい前に、山口大学生にどのくらいインターネットを使っているか、また、どういうサイトを使っているかを調査しました。「授業で使う」以外のところで意外と使っていることを知りまして、行く場所が無いという、その前に家を出ないというか、山口市の魅力に気づけないというようところが、かなり大きな課題だなと、私自身も感じています。読書は少ない。で、もしかしたらこれ、重要なデータですので、スポット集計というか、鉄道やバスを使っている人がこういう行動をしているとか、どういう人が動画鑑賞とかスマートフォンを利用しているかみたいなことが分かると面白いかなと思ったりもしました。

学生も子育て世代も「情報がもっと欲しい」という意見が出ています。バスや鉄道をすぐに増やすことは難しいと思うのですけれど、バスや鉄道を使って、こんなこともあんなことも出来る、こんなに近くにこんな魅力がある、というような情報発信を、せっかくスマホに依存しているのだったら、スマホを通じて発信できるような手段があったら良いなと思いました。

【会長】

ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。レノファ山口のアンケート結果も出ておりますが。

【E委員】

貴重なアンケートをしていただき、ありがとうございます。学生にも認知されていることは分かったので、たくさん観戦していただけるように頑張ります。

【会長】

僕もそう思います。「知られている」というのはすごく重要なことだと思います。「山口にレノファがある」ということはみんな知ってきていると思いますので、引き続きよろしく願いいたします。

【F委員】

私は今、山口県立大学の4年生です。大学生の余暇の過ごし方について、動画やスマートフォンを使う方が多いということなのですけれども、インスタやSNSで山口の魅力を知っている子はたくさんいるし、行きたいなど思っている子も多いと思うのですけれども、38ページの「自由記入欄」の最初にもあるように、どこに行くにしても、車が無い人は電車を使わないといけない。けれど、電車代を出すということを考えた時に、どうしても行けないというか。防府の映画館まで行くのに片道590円かかるのですけれども、

それを払ってまで行くのだったら、もう、YouTubeを見ようか、となってしまう。交通費が惜しいと思っている学生は多いと思うので、そこを支援してあげたら、山口の魅力を知っている学生はいっぱいいると思うので、もっといろいろなところに行きやすくなるし、市と市のつながりも出来ると思いますし、わざわざ山口市に映画館をつくらなくても、防府市へ行けるように支援したら、また、防府から良い魅力を持ち帰って、山口で新しいことをしたりとかも出来ると思いました。

【G委員】

このアンケートは、今年の10月に実施されていますが、コロナの影響はあるのでしょうか。学生があまり外へ出ないというか、こういう時期は外へ出たくないのだと思います。どのくらいの影響があるのかが分からないと思ったのですけれども。アフターコロナの時期になれば、活動的になってくるかなという気はしました。ですから、アフターコロナになれば、「スマホを置いてまちへ出よう」というキャンペーンを、山口市や各大学ともやっていただきたいと思いました。

【会長】

ありがとうございます。

H委員、学生の意見に関して、肌感覚的にはどうでしょうか。この中で一番、学生に近いかと思いますので。

【H委員】

そうですね、私とだいぶ世代が違うといえますか、「ソーシャルな感じ」が全然違うと思っています。それが世代なのか、それこそ、「コロナ世代」のようなものなのか。戻るのかこのままなのか、マスクは一生外さないのか。そのあたりが分からないというのが普段、学生と接して思うところです。ものすごく一言を大きく捉えてしまったりとか、ちょっとナーバスになっている部分もあったりして。そして、生活の部分とメンタルの部分と、いろいろなところで、どこまでコロナ禍前に戻るのかが見通せないなと思っています。

また、「車を所有していないと不便」という意見が出ているのですけれども、これって裏を返せば、車を持っていなくても、ある程度、生活は出来ているということだと思うのですよね。宇部市を見ていると、車が無いとスーパーにも行けない。基本的には車を持っているのですよね。ですから、「車を持っていないから不便」というデータは、それはそれでマイナスなのかもしれないけれども、逆に言えば、これからスポーツとか余暇の部分とかだけでもフォローしてあげれば、十分まちの中で、自転車クラスで生活できているというところは、とても良いことなのかなと、逆に私は捉えました。

【会長】

ありがとうございます。他に何かありますでしょうか。

【I委員】

「車を持っていない」というのは、観光客も同じでして。山口に観光に来られた方に「新山口駅からバスに乗っていきたい」とよく聞かれるのですが、料金が760円だとお伝えすると、皆さん驚かれて、特に若い世代は、その場で諦めてしまうのですよ。

そこで、防長バスは、最近、1,000円で3枚の綴り切符を、市の観光窓口と一緒に作りました。そして、その切符なのですが、市民の皆さんも利用できます。ぜひ、大学生も短大生も利用してください。

【会長】

その情報は、みなさん知っているのですかね。

【I委員】

情報の届き方で言えば、届いてない部分もありますので、ぜひ皆さん、周知をお願いします。

【J委員】

せっかくですので、今日はその切符を使ってこの会場まで来ました。

【I委員】

この3枚綴り1,000円の切符は、山口市内どこへ行っても、300円なのです。とてもお得なのですが、「ぶらやま」という移動のアプリがございまして。アプリからの購入もございまして、ぜひ、若い方への周知をお願いします。

【会長】

ありがとうございます。いろいろな意見が出ていますが、学生さんは足がないので、移動手段、公共交通機関をうまく使うことができると、市内に出かけてしっかりお金を落とすことも出来ると思います。ただ、お金を使いたいと思わせる場所、使いたい場所って、山口市にありますか？という質問がアンケートでも出ていますので、そういうのを見ながら、議論していかないといけないのかなという感じは持っています。山口商工会議所もぜひ、その辺も御検討いただければと思っておりますので、よろしく願います。

ほか、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

【A委員】

学生の意見を代弁するわけではないのですが、正直、学生はあまりお金がなくて、奨学金貸与率もすごく高いです。

そうした中で、大胆なことを言うと、学生の力って無料ではないのですよね。いろいろなところで地域との貢献とか大学連携で、「ボランティアを出してほしい」と言われるの

ですが、ボランティアは当然、無償なのです。その上に交通費を出していかなくちゃいけないくて、学生たちも、ボランティアには行ってもいいのだけど、その場所までの交通費がかかるとなると、ボランティアに行くともマイナスになっていく。それを、「経験」や「地域貢献」という名のもとに力を無償で借りていて、だんだん大学側も誘いにくくなってきます。この10月に、県が山口きらら博記念公園でインクルーシブパークというものを開催したのですが、その際、県と交渉して、1回につき一律900円の交通費を出してもらえることになったのです。そうしたら、「それが出るのだったら行きたい」という学生がたくさんいて、今までにないほどの人数が集まりました。学年ももちろんボランティアに行っても経験は積みたい。その時にアルバイトを休んでも構わない。だけど、マイナスになるのはさすがに辛い、という人たちがたくさんいます。これからのこの後期基本計画にもたくさん学生さんたちを巻き込んでという記載があるのですが、その際に少し補助などを考えてもらえたら、違うのではないかなと思いました。

特に、地域によって違うという話もあるのですが、小郡地域はとても家賃が高いのですよね。学生アパートであっても高いです。湯田地域に住んで、定期を買って通ったほうが、結果的に安いという状況です。小郡地域は、賃貸が異様に高く、私は以前、名古屋に住んでいましたが、名古屋と変わらないぐらいの家賃だったりするので、学生が小郡側に住んでいるというのは、やはりお金も苦しいのだろうと考えたりしました。

【会長】

実体験も含めてコメントをいただき、ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

それでは、これを受けまして、休憩ののちに、第二次山口市総合計画後期基本計画の素案を御説明いただいてよろしいでしょうか。

では、ここで一息ついて、16時まで休憩としたいと思います。

(3)第二次山口市総合計画 後期基本計画 素案について

【会長】

それでは、議事の3番、「第二次山口市総合計画 後期基本計画」の素案の説明をよろしくお願いします。

【事務局】

(資料2 「第二次山口市総合計画 後期基本計画 素案」について説明を行う。)

【会長】

ありがとうございます。

これまでの我々の議論をまとめていただくと、こういうかたちの後期基本計画の考え方になるのではないかと事務局からの御提案でございます。言い足りなかったこと、御意見等がうまく反映されていないこと、ちょっとニュアンスが違うのではないかなど、この場ですぐコメントいただければ理想ですが、御意見や御質問などありますでしょ

うか。

【B委員】

ちょっと正直、この計画では、僕は駄目だと思いました。せっかく脱炭素先行地域に選定されているにもかかわらず、ほとんど脱炭素の前提となるような事業というのが書かれていません。これでは地域脱炭素はほとんど進まない。ちょっと厳しいことを言わせていただくかもしれませんが、「後付けの脱炭素」をやっていたのでは全然進まなくて、そもそもインフラを変えないと進まない話ですし、私たちのライフスタイル自体を変えろと言われているわけです。その中で、このような脱炭素の思考がない計画の出し方をされるということは、全く市民に伝わりません。いろいろな事業の前提に脱炭素があるのだということを、山口市がしっかり示していかないと、絶対に無理だと思います。正直なところ、私はショックを受けました。

脱炭素の前提をしっかりと入れて、市民にしっかりとそのメッセージが伝わるかたちで、市が脱炭素を前提とした様々な事業計画を立てて、それを実施していくという意気込みみたいなものが感じられるような、そのような計画をぜひ、作っていただきたいと思います。

【会長】

今の御意見に関しまして、事務局から何かありますでしょうか。

【事務局】

あらゆる政策について、脱炭素を踏まえながら進めていくというところ、やはりそこが見えるかたちになっておかないといけないということだと思います。

37ページの「持続可能な未来都市づくり」の中では、「スマートシティの推進」として、まずは、広域的な市の中で、中心市街地からモデル的に入ろうとしています。委員がおっしゃられたとおり、インフラや交通システムを、76haという中でまず、重点的に取り組んでいこうというところです。あらゆる施策を、地域脱炭素を踏まえながらやっていくということを、もう少し分かりやすく表現できるように工夫していきたいと思います。

【B委員】

37ページの「スマートシティの推進」の中の「地域脱炭素の推進」。これは今回、環境省が脱炭素先行地域として選定された最低限の事業ですから、これは絶対やらないといけない。ここからどうやって、地域全体を脱炭素へ持っていくのかっていうものをしっかり書かないと。

この後期基本計画は、目標年度が2027年ではありますけれども、2030年、それから2050年に向けてカーボンニュートラルとするところは、ぜひとも、しっかりと書き込んでいただきたい。せっかく市長があれだけ重い宣言を出したのですから、これは山口市がしっかりと進めるんだという意志を示していただきたいと思います。

【会長】

意識改革ですよね。それをきちんと分かるように書かないといけないという御意見。それがこれからは、市民にも大事なことだろうと思います。

【K委員】

実は、前回の協議会后に、市の職員の方の車通勤をやめてはどうかということを提案いたしました。道路の渋滞は、市職員と県職員の通勤の影響が大きいと思っていますのですが、画期的な市としての表明が必要ではないかと思っています。例えば、市職員が大殿・白石地域に住んで、歩いて通勤する、あるいは、公共機関を使って通勤するというような、具体的な、「これだけのことをやるのだ」ということを表明することが必要ではないでしょうか。本当に覚悟のいることだと思いますし、なかなか難しいかもしれないのですが、例えば、中心部の空き家などの古い住まいを使って、若手職員の方がシェアハウスをすとか、中心商店街にさらに購買力をもたらすような工夫をすとか、そういった具体的な表明をしないとと思ったのです。それを試算してみたらと思ったのですが、策定協議会の中ではなかなか難しいということで、「そうですね…」と言って終わったのですけれども。私が思っているのは、市の職員の方が模範的になっていただきたいということではなくて、県都としては、県職員と市職員の方々が高い意識を持って、そこで明るく楽しく暮らすということ自体が大事なのではないかと思っています。どうか遠慮されずに、やってみていただきたいと思いました。

私は、今回この策定協議会に関わって、山口市の将来を明るく夢見て良いのだなというように思ったのです。一緒に夢見ることができる人たちと、今回、出会ったような気がしています。市の職員と一緒に考えてくださっていることを思うと、やっぱりこういう協議会に関わったからには、この先もそういった強い意志で、これだけで終わらせないで、前にも申し上げたように、施設の立ち上げに関わったり、計画策定時の考え方に関わったりした人が、10年後にもう一度、それを再観察して、検討して、そのときの判断が正しかったのかどうかを考えて、というようなことが出来たらいいなと思いました。

【事務局】

お話を伺って思ったのは、やはり地域脱炭素の取組を、歯を食いしばって我慢を重ねるということではなくて、どのように生活が変わるのかを、分かりやすく宣言していくというところが必要なんじゃないか、ということに通じるんだろうと思いました。

実際に今、伊藤市長の施策推進の中で、新本庁舎の整備検討に当たって、駐車場について職員分の台数はすべて外しました。そして、新駅の構想ですとか、あるいは、今回の地域脱炭素の中心市街地のプロジェクトの、例えば、シェアカーとかシェアサイクルとか、あるいは車2台持っている家庭は1台減らして、まちなかに住めるようにしようとか、そうしたところが、まだ十分伝えきれていないだろうなというところもあると思います。この総合計画の提示の中で表現しきれなのか、部門計画に委ねていくのかというところはあろうかと思いますが、工夫をしていきたいと思っています。

【会長】

せっかくですから市の計画をまとめた後で、それをしっかり県にもアピールをして。先ほどもありましたように、国道9号の渋滞の原因みたいな話もありますから、その辺はぜひまた。これだけ市も頑張るのだから、県も一緒に頑張りましょうというような動きは、大事かもしれません。

【D委員】

今、K委員がおっしゃった話は、10年来、山口市の公共交通委員会でも、ずっと委員が言っていることで、ぜひ市役所や県庁の職員の方と、エコ通勤に取り組んでいただきたいと思います。私の出身地の愛知県では、10年ぐらい前から、通勤手当について、自動車通勤している人よりも、自転車通勤している人のほうが多く支給されるようになって変えました。8kmぐらいまで。2km以内だったら3倍ぐらい支給額が違うというかたちに変えたら、2.5倍ぐらい自転車通勤に変わったそうで、ポテンシャルはあると思います。それから、この度、エコ通勤を推進する施策の効果を検討するために、市役所とも連携させてもらって、健康データを分析させていただいたら、10年後、エコ通勤に転換したほうが、職員の健康にも良いというような結果もありますので、やはり長期的に見ても、地域にも身体にも良い暮らしを目指していくんだというようなところを示していただくと良いのかなと思いました。

そして、先ほどの地域脱炭素の件についても、子育て世代は車を持たずとも暮らしやすいまちなか居住を促進するとか、また、アンケート結果で、子どもが安心して快適に過ごせるようなまちなか空間が欲しいというような意見があるのですけれども、27ページの「子育てなら山口」の施策の中に、まちなかで過ごしやすい環境をつくるとか、アクセスを確保するとか、まちなかでの暮らしを促進していくといったことが何も見えないので、暮らしそのものが変わっていくというイメージが全く持てないなど感じました。その辺りも含めてぜひ御検討いただければと思います。

【会長】

ほかに何かありますか。

【L委員】

先ほどの追加というか、バス通勤にしても、燃料の問題なのか、バス自体がすごく臭くて、エコバスなどを、もっと導入していただけるとよいと思います。

あと、電車を使う際、券売機が1台しかなくて、いつもそれで新幹線の時間を気にしながら乗るので、人員を削減するのは全然良いけれども、それにはやはり機械化を十分にするとか、私がスマホで予約すれば済むことなのでしょうけれども、「人が減った。時代だね…」と思うのですけれども、利用しやすい環境づくりを提案してもらえたらありがたいと思います。

それと、少し話が変わるのですが、外国人労働者についてです。多様性のある山

口ということで、海外の方が日本の山口の工場に働きに来られる際に、その家族に対する暮らしの支えというものをもう少し厚くしてほしいと思っています。言葉が不十分なので、受けられない福祉などもあるかと思うので。そして、私の夫もイタリア人なのですけれども、最近事故に遭って、事故の示談というのは難しいのですけれども、それで不利益になったときに、「自分は外国人だから、こんなに不利益になっているのだ」ということを言われて。決してそうじゃないのですけれども、やはり、海外の人へのサポートをすることは、治安を守ることにもつながりますので、その辺りも踏まえて、厚く、情報が広がればなと思いました。

【会長】

ありがとうございます。皆さん一言ずつは、意見を述べていただければと思います。いかがでしょうか。

【M委員】

前回の協議会におきまして、県総合計画の素案を御紹介いたしました。その際、4つの視点、「安心・安全」、「デジタル」、「グリーン」、それから「ヒューマン」ということをお示しました。

こうした視点で山口市の計画の素案を眺めてみますと、まずは、5ページの「デジタル化の進展」の中で、市においては令和4年3月に「山口市スマートシティ推進ビジョン」を策定されまして、57ページにもありますとおり、これを「山口市デジタル田園都市国家構想総合戦略」として、デジタル技術を活用した地域活性化を図るとされています。デジタル社会の実現に向けまして、ぜひ、この取組を継続できたらなと思います。

それから、今、話題になっておりますように、脱炭素先行地域に選定されたことも画期的であると思います。本県は、全体的には、第二次産業を中心とする工業県ですけれども、山口市の特色としましては、観光、歴史、文化、教育と言ったものが強みになるうと思っています。こうした面をしっかりと育てていく必要があるのではないかと考えております。例えば、静岡県裾野市では、市とトヨタが連携して、カーボンニュートラルに向けたまちづくりを進められております。やはり、最大の問題というのは、県職員や市職員がまき散らす車の排気ガスだろうと思っておりますが、自動車のEV化に向けた取組や、自動車を使わない取組といったものを、県職員としてもしっかりと協力していかなければならないと思っております。県内のモデル都市として強力に進めていただけたらと思います。

それから、「人づくり」に関しましては、26ページ以降に子育て支援とか、若者の雇用創出に向けた取組が記載されております。この中で、29ページの冒頭で「大都市圏への若者の転出超過の抑制に向けて」とあります。県も謳ってはいるのですが、なかなか現実問題として、転出超過を抑制するのは難しいと思っています。若者の一定割合は必ず一度、都会を目指して、満員電車と会社のノルマとの生活の中で、田舎の良さを改めて知るということもあるかと思っています。大学生の3割、高校生の4割が3年以内に離

職しております。都会に転出した若者が、再び山口に帰ってこられるように、企業誘致等による雇用創出とか、あるいは、30ページにありますように、UJIターン者の就職支援などに力を入れていく必要があるかと思えます。

それから、余談ですが、29ページには、「農林水産業の経営基盤強化」とあります。萩市が舞台となっているドラマ「ファーストペンギン！」のように、6次産業化による経営基盤の強化がもっと進めば、農林水産業への新規就労者が増えるのではないかと思えます。

【N委員】

素案を見たときに、山口市はあまり防災に興味が無いのだな…とってしまったのですが、25ページの目指すまちの姿には「安全安心で快適に暮らせるまち 安全安心・環境・都市」とあるのですが、重点プロジェクトの中には、「防災」という言葉がパッと目立って出てきていないというのが、すごく気になりました。じゃあ、何が記載されているのかというと、31ページの2番目に「避難行動要支援者の地域における避難支援体制の構築」。あと、33ページに「逃げ遅れゼロに向けた地域防災力の強化(避難行動要支援者等)」ということで、「避難行動要支援者」が2回も出てきて、本当に、年輩の方のことしか考えてないのだなと、驚きました。

先ほど、多様性ということが出てきましたけれども、前期基本計画の5年間とこれからの後期基本計画の5年間で何が違うかということ、やはり、災害が大規模化・甚大化する一方で、その中で、多様性に配慮した支援、たとえば、LGBT や障がい者、外国人の方というような、そういった文言をどこかに入れてほしいと感じました。地域交流センターの強化とか、道の駅の強化という言葉も出てきましたけど、その強化が防災と結びつくとはなかなか捉えにくいような文章になっているところが、気になりました。

【事務局】

実は、44ページの「政策グループ3 安全安心・環境・都市」の中の防災対策の充実という、施策体系として必ずやるものを位置づけているのですが、抽象的な表現になっておりまして。他方で、重点プロジェクトという具体的な取組が書いてあるものから、防災に関して何をやるのかが分かりにくくなってしまいました。このあたりを最終案で肉付けしていきますので、どんなことをやるのか分かるように、工夫をさせていただきます。また御意見をいただければと思います。

【会長】

ありがとうございます。どうぞお願いします。

【C委員】

27ページの「子育てなら山口」について、「子ども・子育て全力応援のまちづくり」のところで3点あります。

まず、ひとつは、「放課後児童クラブの整備推進」とか、「山口らしい児童クラブのあり方の検討」というところで、しっかり具体的に書いていただいて、すごく分かりやすいな、気持ちが伝わると思う反面、端的に書きすぎていて、これじゃ変わらないんじゃないかというところもあります。「子育て支援情報発信の強化」というところですね。アンケートにも「情報が届いていない」という声があったので、記載いただいていると思うのですが、こういう書き方なら、ホームページの充実をしたり、アプリをつくったりと、つくるだけで終わるのではないかなという気がします。そういうことじゃなくて、例えば、子育て世代のニーズに沿った新しい情報を届ける仕組みづくりとか。市のホームページを見ると、しっかりあるのですけれども、結局情報が届いていないということなので。しかも、行政の情報発信ツールは古い。1回つくって、ほったらかしのもので、新しい情報を常に届けるという努力をすべきと思います。それが「全力応援」につながるのではないかなと思います。

それと、「女性が活躍しやすい環境づくりの推進」という言葉が使われていて、全く伝わってこないのですね。例えば、「子育てしながら活躍できる女性の支援・育成」など。30ページに書くのでしたら、そういう女性を育成しますとか、環境づくりだけではなかなか伝わらないところを、もう少し具体的に書いていただけたらなと思いました。

最後に、アンケートの結果について。私も一度スルーしてしまったところなのですが、男性の育児時間のところ。実は、企業が男性の育児参加時間を調べたところ、山口県は、全国で最下位なのだそうです。資料1の13ページにもあるとおり、男性の育児時間は1時間未満が多数と、かなり少ない時間なのです。「全力応援」であれば、そこも足しても良いのかなと思いました。「男性の育児参加率を上げるための仕組みづくり」とか、それから「働く環境の整備」とか、付け加えても良いのではないかなと思いました。

【会長】

ありがとうございます。これも、必ず意見が出るだろうと思っているところでございました。ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

【O委員】

農業分野からお話しさせていただきたいと思うのですが、令和2年の家計調査によりますと、山口県民1人当たりの年間のお米の消費量が約50kgとのこと。山口市の人口で換算いたしますと、実は、山口市の農地で今、山口市民の方が主食として食べる米は、十分賄える生産能力があるということで、まずは皆さん、御安心ください。

何故、このような話をしたかと言いますと、先般、世界の人口が急激に増えているという報道がございました。一方で、山口市は、人口減少に向かっている状況です。世界の人口が増えると、今、皆様が危惧されている、化学肥料の取り合いとか、輸入によって農業の生産の出来量が随分落ちてくるのじゃないか。では、我々が食べる食料というのは、本当に国内で賄っていけるだろうか。そういったいろいろな課題にこれからぶち当たっていくというところが出てくるんじゃないかと思うのです。実は、今のところ、山口市

内においては、主食のお米だけであれば、山口市内の方がお腹いっぱい食べていただいても、山口市外もしくは県外にいくらでも出せるような農業のほ場の状況にあるということですが、そういったほ場を守っていくために、今回、29ページにいろいろな施策について、記載いただいたところがございます。ただ、一般の人がおそらくこれを見られると、これを見た時に、「農業は何でこれをやったら、明るい未来が待っているのか」と、分かりにくいのではないかと思います。私どもは、年中、農業に従事しておりますと、こういう施策は絶対必要だろうという思いはしているのですが、市民の方が見られたときには、「こういうやり方でどうなるの」という話になるのじゃないかなという感じがしております。

それと、山口市の南部地域、または阿東地域において、ほ場整備等調整いたしまして、生産機能を上げるという考え方、また行動の中で、一方では、山口市内の中心部の山間地域に近いところに、「白地」と言いつつ、宅地に転用が出来る地域があります。しかしながら、山間部に宅地を建てられる方が、果たしていらっしゃるのか。または、車1台がやっと通るようなところの田んぼをわざわざ購入して、宅地を建てる方がいらっしゃるかというと、これはちょっと非常に難しい状況にあります。ですから、そういった山口市内の中心からほどよく近いところで、一生懸命、農業をやりながら、緑が多いというのは人間が生活していく上で、十分、心豊かになるのではないかなと思いますので、そういった方々の将来を見つめた記載が加わると、頑張っていこうかなという気になるのではないかと思います。以上でございます。

【会長】

ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

【P委員】

それでは、林業分野の立場から、お話ししたいと思います。

先ほどから、地域脱炭素とか、カーボンニュートラルという話が出ております。その中でやはり、二酸化炭素の吸収源として、森林の役割というのは非常に注目をされているというのが現状だと思います。そうした中で、やはり、植えて、育てて、切って、使うということ。29ページにも「市内産木材の利用促進」と記載いただいておりますけれども、今から市においても施設等を建設されると思いますが、ぜひ市内産木材を使っていたきたい。そのことによって、先ほど言いましたように、植えて、育てて、切って、使うという、SDGsにもつながるかと思いますが、ぜひ、森林が大きな役割を果たしていきます。林業というのは、非常に長い期間かかるわけがございます。植えて、育てて、50年から60年かけないと、材として使えませんので、本当に大変な仕事でございますから、ぜひ、そうした循環的な利用をお願いしたいと思います。

【会長】

ありがとうございます。他にいかがでしょうか。お願いします。

【Q委員】

本来は、社会福祉分野から発言すべきなのですが、休憩時間にも委員の皆さんと話をしたのですけれども、交通がやっぱり重要だと、策定協議会に参加して今回も思いました。バスも古いですし、電車も古い。ただ、交通会社も原資がないので、なかなかブラッシュアップが出来ないと思っています。防府駅から山口大学までJRバスで1,020円かかるのですけれども、往復で「防府の『イオン』へ」と言われると、4~5千円かかってしまうので、サブスクリプションですね。JRとJRバスと防長バスと宇部交通と、4社ぐらいで話をすると出来るのではないかと、委員同士で話をしていました。創造社会ですので、若者がどのように移動したいか。車を持たなくても、そういうものを使えば、今まで行ったことのないところへ行ける。無料では持続可能ではないので、大人はいくら、学生は半額というような料金設定で、今回、この計画には拳がらなかったかもしれませんが、民間の皆さんと検討いただきたいと思います。子育て世代のアンケートでも、「ゆめタウン」や「みほり峠」の人气が高い。確かに、私も子どもを連れて行って、うどんを食べて良い店だなと思っていたら、やっぱり人气が高いのですよね。だから、乗りやすい交通、乗ってみたい交通。ぜひ乗ってみたいなと思えるような公共交通を整備いただきたい。私も通勤に車を使っているのですけれども、バス停がないのです。県庁を過ぎて、トンネルを越えると、山口県立大学のほうまでバスがほとんど走っていないのですね。1日に朝1便、夕方2便ぐらいしかないのです。三の宮のほうに出れば良いのですけれども、そうすると、職場から離れてしまう。先ほどから言われておりますけれども、県庁の方や市役所の方ばかりではなく、全体で考えていただいて、「いつかやる」じゃなくて、「今やる」べきではないかと思っているので、全く分野が違うかもしれませんが、感想として思いました。

【H委員】

私も全く同じことを言おうと思っかけています。本来、建築や都市計画のコメントをと思っていたのですけれども、この数回の協議会で皆さんと議論してきて、いつも話題に上るのは交通のことだったような気がします。総合計画なので、文字通り、「総合」ですので、プライオリティをつけるべきではないのかもしれないけれども、まず最初にやるべきは先ほどの交通サブスクみたいなことではないかと感じています。それが結局、まちなかの再生にもつながっていくと思います。あと、いつも多く議論になったのは、学生だったり、外国人だったり、観光客の方だったり、障がいのある方、子育て世代など、こういう方々が結局、社会的に弱者というか、そういった人たちを救うことにもなりますし、そのツボを押すことで、中山間地域も行ってみようかとか、どんどんいろいろ効果が生まれて、皆がいろいろな場所に行って、いろいろなことを知って、しかも、住まい、暮らしへの満足度が上がっていくなど、手っ取り早いのではないかと思います。サブスクと、先ほどの通勤手当の件ですね。市だけでなく、例えば、会社の方々とか、大学とかもそうかもしれないのですけれども、近いほど通勤手当の支給額が高いというような仕組みを、税の優遇とかも出来るかもしれないのですけれども、ダイナミックに、民間企業と一

緒にやっていくと、ちょっとずつ変わっていくのかなと感じました。

【会長】

ありがとうございます。先ほどもお話ありましたけれど、市役所は、新庁舎になるに当たって、市職員の駐車場は廃止したということをおっしゃっていました。その覚悟で進むと聞いております。

ずっと皆さんのお話を聞いていく中で、今回、後期基本計画を考える上での前提条件として何が変わったかというのは、5、6ページに書かれているように、「新型コロナウイルス感染症に関する影響」、「デジタル化の推進」、「地域脱炭素」、あと、「SDGs」ですね。こういう新しく入ってきたものが、どうこれからの後期基本計画の施策の中に染み出てくるのか。ダイレクトという意味ではなくてもいいので、それが透けて見えるとか、染みて出てくるとか、そういう進め方というのをぜひ考えていただきたいと思えます。それを市民の皆様に見ていただいて、市のやり方が変わってきているということを実感してもらえる施策を考えるとことが大事だということ、皆さん、共通でおっしゃっているのではないかなと思っております。今日の話を受けて、次回の最終案に示していただいて、パブリックコメントで市民の皆様から意見をいただくというような流れになるのかなと思ってます。

あわせて、26ページに、重点プロジェクト6つを挙げていただいております。これで進める、もしくは、これに関して、文言の修正が必要であれば、例えば、N委員もおっしゃいましたけれど、安全・安心がやっぱり必要なのではないかとかですね、そういうことも併せて、コメントシートを書いていただく、もしくはコメントいただくということで、最終案に向かって進めさせていただければと思います。6つのプロジェクトに関して、意見がございませんか。大丈夫ですか。よろしいですか。

【R委員】

重点プロジェクトについて、質問と意見をお話しさせてもらえればと思います。

30ページに「(2)商工業・サービス業の活性化」とあります。上から2番目の「中小企業の経営安定化や成長支援」ということでありますけれども、前期基本計画と比べて見させていただいているところで、この項目につきましては、コロナ禍に加えて、円安等も容赦ない中、重要なものと捉えているので、質問させていただきたいのが、モノが売れるということが企業さんにとって1番大事なところだと思います。中小企業の経営安定化や成長支援、括弧書きではどういった支援がということが書かれておりますけれども、「販路開拓」という言葉が消えているのが、何故かを知りたいと思います。

それから、DX、GXなどの成長分野の取組も必要だと考えております。市内の企業は、大半が小規模事業者ですので、地元企業の実態に合った、きめ細やかな切れ目のない支援ということで、是非対応していただけたらなと思っております。

また、企業で一番多い課題が人材不足だということをお話させていただいたところでございますけれども、人材の確保と育成、定着、こうした一連の支援は継続し

てお願いしたいと思っております。よろしくお願いいたします。

【会長】

質問に関してよろしいですか。

【事務局】

「商工業・サービス業の活性化」の2ポツ目の部分だと思っております。こちらの方、販路開拓への支援というところもしっかりと位置付けてまいりたいと思っております。

【会長】

おおむね時間となりましたので、これで、本日の議事はすべて終わりということにさせていただきます。

それでは、4番目の「今後の日程」に移りたいと思います。事務局からお願いします。

4 今後の日程

【事務局】

次回、第9回策定協議会は、来年1月26日(木)10時から、場所は、現在調整中でございます。日程が近づいてまいりましたら、事務局からお知らせしますので、よろしくお願いいたします。

また、本日は、時間の制約もございましたので、会議の場で御発言しきれなかった御意見、御質問がございましたら、お手元の「資料5 意見書」に御記入いただき、事務局まで御提出いただきますようお願いいたします。

事務局からは以上です。

5 閉会

【会長】

ありがとうございます。

それでは、第8回山口市総合計画策定協議会を終了させていただきたいと思えます。それでは、事務局に進行をお返しいたします。

【事務局】

皆様、ありがとうございました。最終案の作成に向けて、本日の御意見等をしっかり踏まえまして、進めていきたいと思えます。引き続き、いろいろな御意見を頂戴したいと思えますので、よろしくお願いいたします。本日は、誠にありがとうございました。

会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・資料1 第8回山口市総合計画策定協議会 説明資料 ・資料2 第二次山口市総合計画 後期基本計画 素案 ・資料3 委員名簿 ・資料4 配席図 ・資料5 意見書
問い合わせ先	総合政策部 企画経営課 TEL 083-934-2747